

授業に当たって-----大学とは、如何なるところか

初級マクロ経済学A / 初級マクロ経済学B担当教授（高島）

学則第42条(1) 講義については、教室における1時間の講義に対し、教室外における2時間の準備のための学習を必要とするものとし、毎週1時間15週の講義をもって1単位とする。

欠席の多い場合（授業時間の1/3以上）は原則として、その授業科目の受験資格は与えられない。（明治学院大学履修要項）

上記の規則は、大学設置基準に基づいたもので、国公私立を問わず、全国の大学において共通のものである。大学措置法によれば、文科系学部においては、90分の授業によって2時間の授業に替える事ができる。明治学院大学経済学部においても、この特例を適用して授業が行われている。従って、週1回90分の授業が行われるこのコースでは、週4時間の教室外学習と授業時間の2/3以上の出席が、受験資格を得る為の必要条件である。個々の教員が、教室外における学習や授業への出席をチェックしないからといって、此等を怠った学生が、当然に期末試験の受験資格があるという態度をとるのは、（斯かる学生に受験資格がないとまで言わないが）「バレなければ良い」というコソ泥的な考えである。

屢々、授業を聴いているだけでは理解出来ない、授業が難しすぎる、といった苦情を言う学生がいる。しかし、教室外における週4時間の学習もせずに、たんに授業を聴いているだけで理解出来る様な講義をしている教員は、日本国の法律のもとでは、大学において単位を与える事が許されないような、いい加減な授業をしているのであって、仮にかかる教員が存在していたとしても、それが当然である、と考えるのは、学生の完全な勘違いである。

勉強の仕方

授業で学習した内容を、毎週復習する。ノットで理解できない時は、教科書や参考書の対応箇所を読み、理解するように努力する。一人では理解できない時は、友達同志で議論して理解するように努力する。それでも理解できない時は、教師で質問して確認する。

ノットが不完全なところは、授業の内容を忘れないうちに書き加えておく。また、教科書や参考書で確認した事も、ノットに書き加えておく。

授業で説明された概念や分析方法を正しく理解できたと思ったらならば、教科書の章末に

ある練習問題や、配布プリントの研究課題の該当するものを、次回の講義日までに必ず解く。該当する練習問題や研究課題が教科書や配布プリントに載っていない場合や、教科書に載っている練習問題や配布プリントの研究課題を全部解いてしまったならば、参考書にある練習問題を解く。どうしても解けない場合は、友達同志で議論する。それでも解けない時は、教師で質問して確認する。

講義に備えて、必ず予習をする。少なくとも、次回の講義に当たる教科書の箇所は事前に読んでおく。

大学における授業は、高校までで習得した基礎的知識と大学の講義の中で積み重ねられた追加的基礎知識を前提として、当該科目の学問的領域に含まれる事柄に関して、論理的な思考訓練を行うものである。定期試験の直前における一夜漬けによって単位の取得が出来るものでは、決してない。4年間で適当に「楽しく」過ごし、就職さえ決まってしまうと、先生は単位をくれるに決まっている、と考えている学生が多くいる。そして、4年になって、就職が決まっても単位をもらえそうにない、となつて、慌てふためく学生、更には、単位をくれない教師は、人格に欠点がある、こんな教師に教わるのは嫌だ、と騒ぎたてる学生が多くいる。（残念ながら、この様な学生に迎合する教員もいる）しかし、冷静に考え、このような事にならないように、真剣な態度で授業に臨む事を希望する。君達は、大学で勉強したいと望んだ多くの青年の犠牲の上で明治学院大学学生の地位を掴んだのである。